

国産材活用への意気込み、 住宅展示場にも

ゼロ・コーポレーション

ゼロ・コーポレーション（京都市、金城一守社長）は3月末に開設された「平成の京町屋」展示場にゼロホームのモデル住宅を出展している。出展住宅会

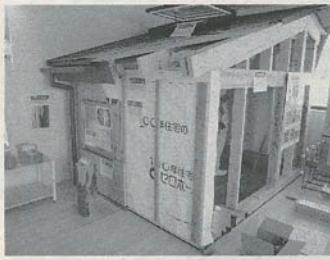
社は公募で選ばれた京都を拠点とする地場ビルダー4社。同社では「京都市内産の木材を利用すること、自然エネルギーを活用すること、断熱性・気密性を確保することに設計のポイントを置いた」と語る。

展示建物は木造2階建て、間口が狭い京町屋まちなかタイプに取り組んだ。建築床面積は32・68坪。管柱には宮崎県産杉双子柱を使用、京都市内産木材利用ということで2階床に松ムク材を、また町

並み景観に配慮し木製京格子と深い軒庇を取り入れた。

高気密・高断熱仕様でありながら、風が室内を通り抜ける設計、玄関土間も広々としてある庭も、見せる坪庭をはじめ3カ所に設置した。2階の2カ所にスカイウインドウを設け、たつぷりとした光が室内に届けられる。

また、エコウイル、LED照明、エコマネシステム、太陽光発電システムを標準装備しており、省エネ、創エネにも対応している。展示住宅の2階には杉双子柱を使った躯体スケルトン模型をはじめとした、同社の国産材への取り組みが展示されている。



ゼロホームのモデル住宅

展示資料のなかには、同社が支援する「西栗倉・森の学校」を紹介するコーナーもあり、同学校で製作された木製家具なども展示されている。